











真謝井戸

真謝井戸の碑

寛延3年(1750)の頃、真謝村は白保から分村した。真謝井戸は当時村民の飲料水用として掘られたが、明和8年(1771)大津波によって埋められてしまった。白保真謝両村も津波のために壊滅したので、八重山の行政庁蔵元では波照間島から強制移住せしめて白保村を再建し、真謝村は廃村となった。

真謝井戸は琉球王命により、視察のため派遣された馬術の名人馬真謝という人が、村人と共に再掘して永く村民の生活に役立てた由緒ある井戸である。

1966年4月23日 老人会建立
撰文 喜舎場永珣・牧野清

2006年6月 吉日 改築
寄贈 ヤマト工業(資)











































































































